

エコアクション 2 1

環境活動レポート

2 0 0 7 (平成 19 年度)



(桜花見会 市民開放)

福岡地区水道企業団
牛頸浄水場
水質センター

【目次】

環境方針	1
1 . 組織の概要	2
1) 事業所名及び代表者名	
2) 所在地	
3) 責任者及び事務局，連絡先	
4) 事業の内容	
5) 事業規模	
2 . 環境目標とその実績	3
3 . 主要な環境活動計画の内容	4
4 . 環境活動の取組結果の評価	6
5 . 環境関連法規への違反，訴訟等の有無	9

福岡地区水道企業団環境方針

1. 基本理念

福岡地区水道企業団は福岡都市圏の住民に安全で安心な水道用水を安定供給するという重要な役割を担っています。いま、異常少雨や集中豪雨、また温暖化などの異常気象に代表される地球規模の環境問題が生じていますが、私たちも、水道用水供給という事業活動を通じて環境への負荷を与えていることを認識し、将来の世代により良い環境を引き継ぐため、地球に優しい行動計画を定め、環境保全に努力していきます。

2. 基本方針

基本理念に基づき、次のことを基本とする環境マネジメントシステムを構築し実践します。

1. 関連法令を遵守するとともに、自主管理基準を設け、私たちの事業活動が与える環境への負荷を低減し地球に優しい水道用水供給事業を目指します。
2. 資源、エネルギーの使用量ならびに廃棄物の削減を図り、リサイクルを推進します。
3. 水源地および流域の環境保全のため、関係ある人々と手を携え環境保護活動に取り組みます。
4. 周辺への環境汚染の予防に努めるとともに、環境に調和した緑豊かな施設を目指します。
5. 環境マネジメントシステムの定期的な見直しにより継続的改善に努めます。
6. この方針は教育・訓練等を通じて全ての職員に周知徹底し、一般に公表します。

平成19年4月1日

福岡地区水道企業団

施設部長 平尾 隆道

1 . 組織の概要

- 1 . 1 事業所名 福岡地区水道企業団施設部 牛頸浄水場・水質センター
代表者名 施設部長 平尾 隆道
- 1 . 2 所在地 福岡県大野城市牛頸一丁目1番1号
- 1 . 3 環境管理責任者 牛頸浄水場長 仁井山 清一
担当者氏名 牛頸浄水場 林 義夫
連絡先 TEL 092 - 596 - 5021
FAX 092 - 595 - 3065
E-mail hayashi@f-suiki.or.jp
- 1 . 4 事業の内容 水道用水供給事業
- 1 . 5 事業の規模

活動規模	単位	19年度	18年度	17年度	16年度
水道用水供給収益	百万円	8,240	8,578	8,310	8,497
職員数	人	40	40	40	40
庁舎の延べ床面積	m ²	15,942	15,942	15,942	15,942
水道用水供給水量	千トﾝ	61,089	63,592	61,605	62,992

職員数には、常勤の嘱託職員、臨時職員等が含まれます。

- ・ 水道用水供給収益；認定送水量及び脱水ケーキによる収益による。
- ・ 水道用水供給量；認定送水量 + 脱水ケーキ搬出量（総製品生産量）

2. 環境目標とその実績

2.1 目標の達成状況

当事業所は、エコアクション21を取得すべく、ISO14001と並行して、平成19年4月から環境活動に取り組んできた。

平成19年度の目標と実績は、以下のとおりである。

環境目標 (H, 18年度実績を ベースとして削減する)	単位	平成18 年度実績	平成19年度		増 減	達成 状況
			目標	実績		
1 二酸化炭素排出量 の削減	kg・CO2/ 総用水供給量・百万トン	22,813	22,357	23,542	103%	×
2 廃棄物排出量 の削減	トン/ 総用水供給量・百万トン	0.0440	0.0432	0.0426	97%	○
3 総排水量の削減 (水使用量)	トン/ 総用水供給量・百万トン	56.8	55.7	52.1	92%	○
4 水源地・流域, 及び周辺との コミュニケーションの推進		<ul style="list-style-type: none"> ・牛頸浄水場植樹祭、桜会実施 ・ラブグリーン大山ボランティア育林事業参加 ・ラブアース・クリーンアップ2007参加(海の中道) 				○

廃棄物排出量と上水使用量(総排水量)削減は目標をクリアしたが、二酸化炭素排出量が増加した。

2.2 今年度以降の目標

環境目標 (H, 18年度実績をベースとして 削減する)	単位	平成18年度 実績	平成19年度 (h19, 4~ h20, 3)	平成20年度 (h20, 4~ h21, 3)	平成21年度 (h21, 4~ h22, 3)
1 二酸化炭素排出量の削減	kg・CO2/ 総用水供給量・百万トン	22,813 (100%)	22,357 (98%)	21,901 (96%)	21,444 (94%)
2 廃棄物排出量の削減	トン/ 総用水供給量・百万トン	0.0440 (100%)	0.0432 (98%)	0.0423 (96%)	0.0414 (94%)
3 総排水量の削減 (水使用量)	m ³ / 総用水供給量・百万トン	56.8 (100%)	55.7 (98%)	54.6 (96%)	53.4 (94%)
4 水源地・流域, 及び周辺との コミュニケーションの推進		水源地流域の清掃活動等参加、 地域住民への施設の開放と見学会。			

4. 環境活動計画の取組結果の評価

エコアクション21を運用した平成19年度の目標に対する実績は次のとおりであった。

環境目標 (H18年度実績をベースとして削減する)	単位	平成18年度実績	平成19年度		増減	達成状況
			目標	実績		
1 二酸化炭素排出量の削減	kg・CO ₂ / 総用水供給量・百万トン	22,813	22,357	23,542	103%	×
(電気使用量の2%削減)	kwh/ 総用水供給量・百万トン	54,623	53,530	56,614	104%	×
(ガソリン使用量の2%削減)	L/ 総用水供給量・百万トン	76	74	74	98%	
(A重油使用量の2%削減)	L/ 総用水供給量・百万トン	712	698	705	99%	
(液化石油ガス(LPG)の2%削減)	kg/ 総用水供給量・百万トン	20	19	20.0	100%	
2 廃棄物排出量の削減	トン/ 総用水供給量・百万トン	0.0440	0.0432	0.0426	97%	
(廃棄物等総排出量)	トン/ 総用水供給量・百万トン	0.0409	0.0401	0.0377	92%	
(廃棄物最終処分量)	トン/ 総用水供給量・百万トン	0.0031	0.0030	0.0049	158%	×
3 総排水量の削減 (水使用量)	トン/ 総用水供給量・百万トン	56.8	55.7	52.1	92%	
4 水源地・流域、及び周辺とのコミュニケーションの推進		<ul style="list-style-type: none"> ・牛頸浄水場 植樹祭、桜花見会実施 ・コスモス見学会、施設説明会実施 ・ラブグリーン大山ボランティア育林事業参加 ・ラブアース・クリーンアップ2007参加 など 				

3 . 主要な環境活動計画の内容

3 . 1 二酸化炭素排出量削減のための取り組み目標と取り組み方法

(1) 電気使用量の削減 (2 %)

エアコン設定温度を決め (夏 2 8 , 冬 1 9) 実行する。

不要電力消費 (室内、外灯、エレベーター) を抑制する。

高効率器具の導入 (トップランナー方式のトランス等)



赤テープ ; 不在時消灯
白テープ ; 常時点灯
緑テープ ; 土、日 夜間消灯

(節電目的)

(2) ガソリン使用量の削減 (2 %)

アイドリングストップに努める。

本庁事務連絡等、輸送方法の合理化。

車の整備 (適正空気圧にする等)

(3) A 重油使用量の削減 (2 %) (冷暖房ボイラー用重油)

エアコン設定温度を決め (夏 2 8 , 冬 1 9) 実行する。

クール・ウォームビズに努める。

室内機フィルター清掃

3 . 2 廃棄物排出量の削減のための取り組み

(1) ごみ発生量の削減 (2 %)

不必要な包装等を持ち込まない。

リターナブル用品の購入に努める。

備品の修理を行い、長期間の使用に努める。

(2) 紙発生量の削減 (2 %)

会議資料のペーパーレス化に努める。

コピー等の裏面使用・封筒の再利用の推進に努める。



(コピー用紙のリサイクルと廃棄物削減目的)

3 . 3 総排水量の削減 (2 %)

(1) 節水活動の推進に努める。

(2) 節水機器の検討をし、採用する。

(3) 雨水の有効利用

3 . 4 水源地・流域、及び周辺とのコミュニケーションの推進

牛頸浄水場は、「筑後川」から日量最大 178,800m³ を取水しています。筑後川は、熊本・大分・佐賀・福岡の 4 県にまたがる九州最大の 1 級河川であり、安全で良質な水を安定的に供給するためには、豊かな森を育てることや河川流域の環境を健全に保つことが大切なことです。

当浄水場及び水質センターでは、地域の方々と連携・協力して植樹や下草刈りなどによる水源林の保全や、河川清掃による環境保全など積極的に参加活動しています。

(1) 地域住民への施設の開放と見学会 (交流事業)

(2) 水源流域の清掃活動等参加 (森林・環境保全)

4.1 二酸化炭素排出量の削減

二酸化炭素排出量の削減は、原単位では目標を達成できなかった。

イ、電気使用量について

電気使用量の使用実績は、対前年比 - 0.43%に留まった。

電気使用量については、現在受電電力量のみについてデータ管理を行っているが、水質センター棟や沈でん物排水処理棟など細分化した電力量のデータ管理を検討していく。

ロ、ガソリン使用量について

牛頸浄水場は配水池等の設備更新の監督業務の増加により対前年比 + 5.6%の増加、水質センターは他市町村の採水受託の件数減少により - 13.7%の削減となり、全体としては - 5.8%の削減となった。

ハ、A重油使用量について

A重油の使用実績は、対前年比 - 4.9%となった。

夏場の異常気象の割には、冷暖房設定温度の遵守により削減できたと考えている。

ニ、LPG使用量について

LPGの使用実績は、対前年比 - 4%となった。

上記のとおり使用実績については各項目とも前年より減少しているが、総用水供給水量当たりの「原単位」では、導水管の事故や導水管調査等による取水停止により総用水供給量が平成18年度と比べ大きく減少したことにより、全体としては + 3%の増加となった。

	電力量(kwh)	ガソリン(L)	A重油(L)	LPG(Kg)	廃棄物(トン)	総排水量(トン)
18年度	3,473,544	4,807	45,301	615	3.2	3,614
19年度	3,458,496	4,529	43,059	591	2.9	3,182
対前年比	99.6%	94.2%	95.1%	96.0%	90.6%	88.0%
増減	-0.43%	-5.8%	-4.9%	-4.0%	-9.4%	-12.0%

各項目の使用実績による比較

4.2 廃棄物排出量の削減

廃棄物排出量は、原単位による対前年比 - 3%となり目標を達成した。

可燃性ゴミの排出量は削減できたが、びん・かんや不燃物の排出量が増加した。これは、更新工事に伴い現場事務所が設置され、人員の増加によるものと考えている。

4.3 総排水量の削減

総排水量は節水意識の向上により減少し、目標を達成した。

4.4 水源地・流域、及び周辺とのコミュニケーションの推進

(交流事業)

「福岡地区水道企業団環境方針」の基本理念及び基本方針を基に、浄水場の周辺での環境汚染の予防や環境に調和した緑豊かな施設を目指すことを目的に、下記の環境活動に取り組みました。

- ・ 植樹祭及び桜花見会 来場者 188名
- ・ コスモス見学者 来場者 380名
- ・ 小学生見学者 来場者 2,055名

(1) 地域住民への施設の開放と見学会



牛頸浄水場植樹祭

(平成 19 年 4 月 3 日)



桜花見会



コスモス見学会

(平成 19 年 11 月 22 日)



市民への施設説明会

(森林・環境保全)

「福岡地区水道企業団環境方針」の基本理念及び基本方針を基に、水源地域及び流域の環境保全のため、下記の環境保護活動に取り組みました。

・ 浄水場及び水質センターの延動員数 68名

(2) 水源地域及び流域の清掃活動等参加



水源の保護(水源涵養林の育成活動参加)



河川の清掃(空き缶拾い作業参加)

5 . 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

5 . 1

当事業所に適用される環境関連法規の遵守状況を確認した結果、過去3年間違反はありませんでした。また、関係機関等からの指摘、利害関係者からの訴訟も過去3年間ありませんでした。